

イルカ通信

小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

2009年6月1日 No. 030

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「興洋でイルカ・クジラ調査」

東京都小笠原水産センターとOWAは、小笠原海域に出現する鯨類の種および分布を把握するため、調査指導船「興洋」で目視調査を実施しています。船のアップブリッジと呼ばれる外部デッキから、調査員が肉眼あるいは双眼鏡を用いて遭遇した鯨類の種や個体数、時間等の情報を記録します。アップブリッジには雨や飛沫から身を守るための屋根だけでなく、緯度経度、水温、水深を示す機材が設置されていて、出現場所と海洋環境も把握することができます。

この調査では主に沿岸で見かけるミナミハンドウイルカ、ハシナギルカそしてザトウクジラだけでなく、マッコウクジラやコビレゴンドウ、マダライルカといった外洋性の鯨類を確認することがあります。調査で得られたデータは、小笠原の鯨類相や鯨類の出現の季節性を解明するために必要な基礎データとなっています。また、小笠原海域でエコツアー（主にホエールウォッチング）を行う事業者の方々にとっても有用なデータとなるように活用していきたいと思っております。



調査中に確認したマダライルカ

「イルカとの共生を目指して」

「調査に行ってきます！」との言葉と共にOWA事務所に現れるイルカ調査隊スタッフたち。GPSやデジタルカメラなどの調査道具を手慣れた様子で棚から取り出し、調査へ出かけていきます。

イルカ調査隊は、ミナミハンドウイルカの生態研究と普及を目的として、2003年6月に発足しました。発足して早6年、おおよそ1週間に1度のペースで調査を行っています。この調査をもとに2006年に作成した個体識別カードでは、尾びれや背びれの特徴、個性的なイルカを紹介しています。個体識別カードはOWA事務所でも見ることができます。

現在まで識別された個体数は207頭に上ります。また、鷲島・父島・母島列島間の移動が確認されたほか、基本的にこの海域内に定住していると考えられること、親子関係についてなど、その生態が少しずつ明らかになってきています。とは言え、まだまだ分からないことだらけ。今後も調査を継続することで、ミナミハンドウイルカの社会構造を明らかにし、調査で得られた成果を保全と観光に生かしていきたいと思っております。



OWA調査船フォースターでの調査風景

ミナミハンドウイルカのIDカードをご存知ですか？

イルカのツアーに出かけるとき船やショップで見かけたら・・・

いろいろな傷のある尾ビレ・背ビレの写真や、わかりやすい特徴のあるイルカ達を紹介しています。どんなイルカがいるのかな？ さっき見たイルカの写真はあるのかな？ IDカードを活用してイルカを知る手がかりを、もっと見つけてみましょう！



小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
Tel 04998-2-3215 e-mail owa@h6.dion.ne.jp

イルカ通信はOWAのホームページ (<http://www.ogasawara.or.jp/owa>) もしくは (<http://www.h2.dion.ne.jp/~owa/nukatsushin/nukatsushin.html>) からダウンロードできます (無料)